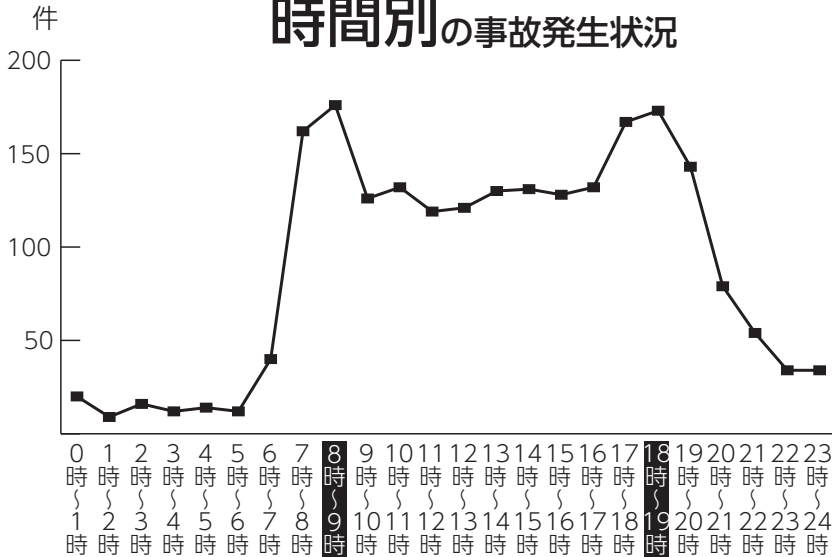
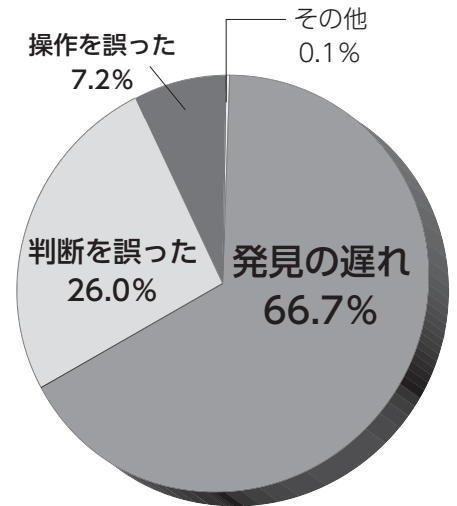


時間別の事故発生状況



事故発生の要因



※参考資料：県警本部交通企画課発行「交通事故統計」(平成24年1～3月)



事故の統計

圧倒的に多い前方不注意

県内で起きた交通事故の原因で圧倒的に多いものが、全体の66.7%を占める「発見の遅れ」、いわゆる前方不注意だ。携帯電話を操作しながら、考え事をしながら、などの「ながら運転」は、普通なら難なくクリアできる交通事情でも、一瞬判断が遅れる。ハッとしたときには急ブレーキを踏む、といったパターンだ。

2番目に多いのが「判断

の誤り」で26.0%を占める。「相手が道を譲ってくれると思った」といった、自分の思い込みによる事故だ。時間帯によっても事故発生率が大きく変わってくる。通勤・通学時間の6時～9時の間の増加が最も顕著で最大。そして、帰宅時間である17時～19時の間に2回目のピークを迎える。

グラフは県内の事故の1月から3月までのものだが、件数にして2,164件、1日あたり24件程度発生している計算となる。

Interview

運転時は 運転に集中して



御船警察署交通課長
志賀 正浩 警部

ドライバーは、過労や、持病が出ている時、正常な運転ができない時は、事故を起こす可能性が非常に高いので、運転を控えるようにしてください。最近多い、携帯電話を使用しながらの運転は注意力が散漫になりやすく、追突事故や、道路横断中の人の発見が遅れ、重大事故に繋がりがありません。

今の車は運転しながら、ほかのことができるほど便利になっていますが、運転している時は運転に集中しなければ、周りの状況が見えにくくなります。追突事故など、前方不注意での事故は、周りが見えれば十分防げる事故だと思っんです。